

3 林木育種事業

担当者名 増山知央

事業内容

林木の遺伝的素質を改善し、林業生産の増大と森林の公益的機能向上を図ることを目的として、成長量・材質・各種抵抗性等の形質の改良を進めるとともに、優良種苗の安定確保のため、下記の事業を実施した。

(1) 林木育種事業

本年度、塩野室育種地内の公共用緑化木養成苗畑に花粉の少ないスギ精英樹品種によるミニチュア採種園(28系統196本 面積:0.09ha)の造成を行ったほか、平成20年度に造成したミニチュア採種園(3号区画)の28系統93本から種子採取を実施した。

塩野室育種地の育種母樹林については、刈払い・施肥・支障木竹の伐採を実施すると共に、樹形の乱れが激しかったスギ1号49型の一部及びヒノキ2号の採種園において、断幹・整枝せん定のほか、スギ1号49型およびスギ2号東の採種園内に場内苗畑で養成していた少花粉スギ苗13本を補植する採種園改良を実施した。併せて、構内の建造物・道路、各種試験地、防風林の周辺の下刈り等の維持管理も実施した。

(2) 優良種苗確保事業

スギ・ヒノキ精英樹採種園において、ジベレリンの剥皮埋込法による着花促進処理を実施した。実施箇所は、スギ1号25型およびヒノキ3号であるが、ヒノキ3号の着花促進処理では、成樹93本・幼齡樹32本に対してジベレリンペースト剤による処理を行った。

ヒノキでは前年度に着花促進処理を実施したヒノキ2号を対象にして、虫害防除袋かけを実施したが、豊作年であったため使用済袋の再利用を図るなどして約2,400袋実施した。採取した種子は低温貯蔵庫に貯蔵し、払出し前に発芽検定を実施した。

表-1 スギ種子生産管理表 (単位: kg)

年度	スギ(精英樹)				スギ(少花粉)			
	採種量	播種量	試験・処分	備蓄量	採種量	播種量	試験・処分	備蓄量
H 15	40.1	45.4		156.7				
H 16	58.5	46.9		168.3				
H 17	40.0	40.5		167.8				
H 18	25.3	33.5		159.6				
H 19	23.3	37.8		145.1				
H 20	30.9	27.2		148.8				
H 21	21.2	22.3	55.4	93.4	4.1			
H 22	20.7	16.5	13.4	84.2	7.0	2.9	0.2	8.0
H 23	13.4	12.9	22.3	62.4	16.8	6.1	0.1	18.6

表-2 ヒノキ種子生産管理表 (単位: kg)

年度	ヒノキ(精英樹)			
	採種量	播種量	試験・処分	備蓄量
H 15	20.0	32.3		534.8
H 16	1.3	35.9		500.2
H 17	30.3	60.3	56.5	413.7
H 18	25.3	44.7	8.8	385.5
H 19	20.0	46.3	312.5	46.7
H 20	31.4	23.1		55.0
H 21	26.3	10.1		71.2
H 22	20.4	18.7		72.9
H 23	10.5	5.9	2.3	75.2